

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	すてっぷ小祿				公表日	2026年 3月 13日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5名		活動やおやつ、宿題などの用途に合わせて部屋を使い分け、日々支援に取り組んでいる。	スペースの見直し、定期的な断捨離を行う必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5名		朝礼時に役割や一日の流れを確認し、適切に対応を行っている。	職員の休みが出た場合は、予定していた活動を変更し、ねらいのハードルを下げる事がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3名	2名	活動に応じて絵カードやホワイトボードを使った視覚支援を主に行い対応している。	スロープやステップが無いので、車いすや歩行器使用の児に対してバリアーになってしまっている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4名	1名	毎日掃除機やマイペットを使ったモップ除菌を行い、清潔を保ちながら過ごしている。	時々活動で使用した道具類が散乱している事があるので、終礼前に再度の確認を行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5名		グループ活動での部屋分けや、クールダウンの対応の為に、場合によっては事務所を使い支援に繋げている。	利用者が増え、以前よりも個別で部屋を使う事が少なくなっている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5名		朝礼時に本日の児童の対応や活動の狙いについて確認し、終礼時には振り返りを行っている。	職員同士のやり取りの際に、ねらいについての認識のずれが時々あるので、軌道修正しながら統一した認識を行いたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5名		送迎時の申し送りだけでなく、ラインや電話での報告や定期的な面談を行い、意見を参考に業務改善に繋げている。	連絡が繋がりにくい保護者もいるので、こちらから繰り返し確認を行う必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5名		朝礼、終礼に時間をかけており、確認や振り返りを徹底的に行っている。	振り返りが次回の似たような場面で生きていない事があるので、繰り返し「次はどうするのか」を追求する必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4名	1名		上手く出来ていないので、今後兄弟事業所とも連携を取って対応していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5名		ティーチャーズトレーニングを中心に、外部への研修に積極的に参加している。	現場の状況によって参加出来ない事もあるので、今後は他事業所のヘルプももらいながら積極的に参加していく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5名		HPに掲載し掲示を行っている。	SNSを上手く使い、情報の発信に繋げていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5名		自発管を中心にアセスメントを行い計画している。また支援計画の原案の確認から保護者に行いより良い支援計画の作成を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5名		定期的な会議を行い、支援計画の見直しや統一した支援、理解について取り組んでいる。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5名		主に午前中を使い、その日の児童への対応を想定し支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5名		専用のソフトを参考に、記録やアセスメントを行い行動観察、支援への情報収集を行っている。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5名		本人の気持ち、保護者のニーズに加え、相談支援事業所が作成する相談支援計画書と併せた内容の個別支援計画を作成。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5名		主に午前中を使い、活動立案の場を設けている。同じ活動にしても「集団」「個人」「勝敗」「成功や失敗」等、ねらいを追求し取り組んでいる。	活動の中身が職員によって変わった際の共有が上手くいかず、児童への対応が後手を踏んでしまう事がある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5名		同じ活動でも内容の変更をこまめに行い取り組んでいる。他事業所の様子も情報収集し、活動の参考にしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5名		その時の児童の様子に応じて臨機応変に支援を行い、個別活動や集団活動に取り組んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5名		朝礼時に本日の児童の対応や狙いについて確認し、チームで連携、支援を行っている。 また、次の日の打ち合わせに時間が取れそうに無い時は、前日の終礼時に時間をかけて連携や確認を行うようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5名		終礼時に本日の児童の対応や活動について振り返りを行い、次回の支援への修正や変更に繋げている。	送迎に時間がかかり退勤時間を超えた場合、職員がそろわず、振り返りが上手く行えない場合がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5名		担当の児童以外の様子も気付いた事を伝えあい、より中身の濃い記録を取るよう心掛けている。	送迎時の道路の混雑や申し送りの長さから、業務時間内に全員分の記録を取る事が出来ず翌朝以降に記録の記入を行う事がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5名		6か月を目途にモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5名		「自立支援と日常生活の充実の為の活動」は個別、集団と分けて行っている。「余暇の提供」もスペシャルタイム等を通して上手く出来ている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5名		活動一つ一つに選択肢が持てるよう設定し「どうする?」「アドバイスする?」等と児童一人一人の確認が出来るよう支援を行っている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5名		自発管を中心に、児童の担当の職員が会議へ参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3名	2名	保育、教育機関との連絡や情報交換を行っている。	保健や医療機関との関わりが無いので、兄弟事業所も一緒に体制を整えていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5名		朝礼時に全体で確認し、送迎出発前にはラインの最終確認を行い、適切な対応を行っていく。	保護者との確認が取れてない事があり、お迎え時間の間違いが数回あったので改善に取り組んでいる。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4名	1名	利用開始前に関係機関のスタッフと会議を行い、成育歴を中心に情報交換を行い、より良い支援に繋げている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4名	1名	アセスメント表や支援計画、日々の記録の提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2名	3名	研修や会議などで助言を受ける機会がある。	今後児童発達支援センターとの連携を図る必要がある。

	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1名	4名	近所の公園に行った際にメンバーを交えての遊びの交流がある。	自発的に交流する事が出来ていないので、計画を立てて交流を増やす必要がある。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		5名		協議会に参加する時間を設ける必要がある。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5名		送迎時の申し送りや定期的な面談を行い、共通理解に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2名	3名	職員が受けた研修資料を提供し、一緒に学ぶ機会を設けている。また、メールや電話、書面での研修案内を保護者にも伝え、参加を促している。	職員も保護者同様に研修に参加し、より良い支援が出来るよう対応していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5名		契約時に保護者と書面の読み合わせを実施している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5名		保護者の意見、育て方を尊重し良い関係が築けるよう定期的にニーズや状態の確認を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5名		モニタリングや定期的な面談を通して確認、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5名		保護者の意見、育て方を尊重し良い関係が築けるよう定期的にニーズや状態の確認を行っている。	援助、面談を行える職員が少なく、今後の職員育成が重要であると思われる。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		5名		合同での父母会が出来ておらず、今後交流の場を設けていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5名		自営や主任を中心に、適切に対応し処理を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5名		SNSやお便り、活動予定表を発行し活動の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5名		個人情報同意書の確認や、掲示や会議で使用するには、必ず保護者への確認を行い許可を得ている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5名		声掛けだけでなく、絵カードや写真を使った視覚支援、刺激の少ない部屋で一对一の対応を行う聴覚支援を中心に配慮を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5名		全くできていないので、時間を設け同じビル内の関係者からスタートし交流を今後図る。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5名		兄弟事業所との連携も含め、マニュアルを作成し訓練を行い、緊急時に備えている。	連絡が取りづらい保護者への周知が出来ていない現状があり、呼びかけが今後必要。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4名	1名	兄弟事業所との連携も含め、マニュアルを作成し訓練を行い、緊急時に備えている。	訓練の開催が不定期になっているので計画通り取り組む必要が今後ある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5名		保護者からの指導や外部の研修を参考に、対応、確認を行っている。	てんかん発作を直に見て対応した職員がいないので、実際に起きた際の対応に不安がある。

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5名		アセスメント表や個人情報を参考に対応を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4名	1名	物品の管理や地震時や火災発生時に備えての対策について定期的に話し合いの場を職員同士設けている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4名	1名	複数の携帯電話の確認や、事業所の動きについて面談時に確認を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5名		終礼時に本日の報告の際、ヒヤリハットの確認を行っている。記録として残り次回発生がないよう取り組んでいる。	ヒヤリハットの認識について個人差があるので、話し合いを重ね統一や合わせを行っていききたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5名		兄弟事業所と協同の研修を行い、虐待防止に力を入れている。	期間が開くと、意識の低下に繋がるので計画して適度な研修開催を行っている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5名		契約時に書面を通して確認し身体拘束を行う際の確認を行っている。	